



研究室概要

根本にあるのは建築の多様性に関する興味です。具体的には、地域性や生活文化との結びつき、時代・時間との関わりに注目しながら、都市／建築／空間の形成過程や構成、使われ方について、実践（設計・施工・ワークショップ）と研究（調査・分析）の両方から考えていきます。

■基本方針

①フィールドワーク

フィールドを通じた体験と実感を大切にすること。多様な体験が豊かな感性と幅広い視野の獲得に、生の実感が活動の原動力につながります。

②調査／分析／表現のサイクル

体験を客観化して分析し、第三者と共有できる形で表現すること。フィールドで足を使い、大学に戻って頭を使い、社会に向けて言葉と手を使って提案にまとめる。全部やるのが大事です。

③設計と研究を分けない

デザインが好きな学生はデザインが生み出される原理や背景への関心を深めてほしい。研究が好きな学生は最終的に一つの形として提案することを意識してほしい。設計と研究の両立を目指します。

■ゼミナール／卒業研究・卒業制作について

テーマの設定は、基本方針をふまえた上で、個々の自主性にゆだねます。3年ゼミでは主に文献研究とフィールド調査演習を通じて、調べ・考え・表現することのトレーニングを行い、4年は4月から卒業研究＝設計に取り組むと同時に、院生とともにコンペや実施の計画、木匠塾といった研究室プロジェクトの中心的役割を担っていきます。宴会や学外への建築見学ツアーは、極めて重要な行事です。



斜庭の町家：伝統的京町家の空間構成の再解釈による新築住宅（2009）



荒壁を廻る家：土の茶室を中心にしたマンションリノベーション（2004）

研究事例紹介

■二つの問い

"Where is the Place?" という、当たり前すぎる問いが必要になっています。地域性や場所のアイデンティティの問題です。同時に "What Time is the Place?" という問いかけへ応える試みを模索します。人間は時間的存在であるため、建築や都市にも時間の表現を必要とすると考えるからです。

■地域性を許容・表現・活性化する都市／建築研究

①一地域の伝統的住居の再解釈

伝統的住居に学びながら、その土地ならではの現代の建築のあり方を考える。

②一職人技術・伝統的素材の現代的展開

大工・左官・庭、土・木・竹、現代の建築から遠ざかりつつある技術や素材の可能性を探る。

■時間の蓄積を継承する都市／建築研究

①一歴史的連続性を担保する都市・建築の更新

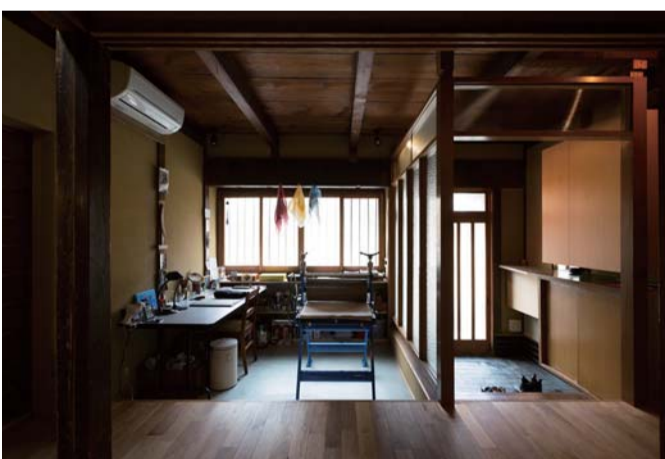
個々の建築における時間の継承。増改築を重ねることで生まれる複雑で魅力的な空間を評価し、新たな建築への応用を検討する。Scrap & Build ではなく Built & Build の手法の模索。

②一住経験論

建築に対する価値観形成の核となる住まいと生活の経験＝「住経験」にアプローチする新しい試み。



SAKAN Shell Structure：左官技術を活用した仮設住宅開発（2007）



紫野の町家改修：数度の改修の痕跡を積極的に活かした改修（2011）



聖地ヴァーラーナシー（インド）で見られる寺院と住宅の融合現象

研究室構成員紹介

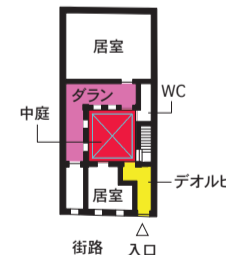


柳沢 准教授：

1975／神奈川県横浜生まれ。1996／中国からポルトガルまでユーラシア大陸横断の旅（～1997）。以降アジアを中心とする都市・建築のフィールド研究に携わる。1999／京都大学工学部建築学科卒業。2001／京都大学大学院修了。神楽岡工作公司共同設立。京都を拠点に設計活動を始める。2003／神戸芸術工科大学助手（～2008）。2007／国立民族学博物館共同研究員（～2010）。2008／博士学位取得（インドの聖地の都市構造と居住空間に関する研究）。一級建築士事務所・究建築研究室設立。住宅を中心とする設計実務に携わる。2012年名城大学着任。

〈設計作品〉

- 紫野の町家改修（町家再生住宅、2011）
 - 斜庭の町家（住宅、2009）
 - SAKAN Shell Structure（仮設住宅モデル、2007）
 - 荒壁を廻る家（リノベーション住宅、2004）ほか
- 〈著書〉
- 「生きている文化遺産と観光」（共著、学芸出版社）
 - 「無有」（著：竹原義二・構成：柳沢究、学芸出版社）
 - 「世界住居誌」（共著、昭和堂）
- 〈受賞等〉
- 第1回京都建築賞優秀賞（2013）
 - 第5回地域住宅計画賞（2010）
 - 京都デザイン賞入選（2009, 2010）
 - 第5回雪のデザイン賞 奨励賞（2009）
 - 第13回タキロン国際デザインコンペ2等（2002）



アジアの歴史的都市における都市空間と住居類型に関する研究



インド都市部における環境配慮型集合住宅の提案（2013）